

台風第25号の接近に伴う農作物被害防止対策

平成30(2018)年10月5日
塩谷南那須農業振興事務所

大型で非常に強い台風第25号の接近に伴って、県内でも、台風による大雨、強風等の影響が懸念されることから、以下の技術対策により被害防止に努めてください。

なお、台風による大雨、強風時においては、農作業及び農地・農業用施設の見回り等は行わないなど、身の安全確保を第一に努めてください。

また、先の台風24号では、管内において農作物や施設ハウスの被害が発生していますので、十分に留意願います。

I 共通

1 大雨対策

- (1) 大雨による冠水等が心配されるので、事前に排水溝を設けるなど、対策を講じておく。
- (2) ゴミや刈り払った雑草が水路を塞がないよう、事前に取り除いておく。

2 強風対策

(1) 防風網・防鳥網・多目的防災網等の点検、補修

- ① 網が飛ばされたり破られたりしないよう固定状況を点検するとともに、破損部があると強度が低下するので補修をしておく。
- ② 目が細かい多目的防災網等を展張している場合は、網の外側に支柱等を建て柵線に固定する。

(2) ハウスの点検、補修、補強

- ① 被覆資材の破損部や固定が不十分なところがないか点検し、補修を行っておく。
- ② 筋交いにより奥行き方向への倒壊を防止する。また、ハウスの肩部を引っ張り資材や、つかえ棒で補強し、変形を防止する。
- ③ 使用していないハウスは、天井や妻面のビニールをはずして風を抜けやすくし、施設の損壊を防ぐ。

3 事後対策の準備

- (1) 被害後、速やかに回復措置がとれるよう、排水対策や施設等の修復、病害防除等の準備をしておく。

II 普通作物

1 水稲

- (1) 収穫適期を迎えている水稲は、台風の接近前に速やかに収穫する。
- (2) 冠水した場合は、速やかに排水に努める。
- (3) 倒伏した稲は、晴れ間を見て株起こしを行い、穂発芽を防止する

2 大豆・小豆・そば

- (1) 大雨による冠水及び浸水等が心配されるので、排水溝の点検をしておく。
- (2) 倒伏したそばは、無理に起こすと折れてしまうので、自然に起き上がるのを待つ。

Ⅲ 野菜

1 全般

- (1) 強風対策として、ハウスやネットの点検・補修・補強を行う。特に、今回の台風では強い南風が想定されるので、南面の防風ネットの強化・再整備を行う。
- (2) ハウス側面からの風の吹き込みが倒壊の要因となり得るため、側窓を完全に密閉し、特に巻き上げ換気（くるくる等）では、両端を地中杭に固定する。
- (3) ほ場の冠水及び浸水が懸念されるので、排水溝の点検、再整備をしておく。

2 いちご

- (1) 炭疽病が発生しやすくなるので、排水対策を行うとともに、発生が懸念されるほ場では防除を実施する。育苗期と本ぽで使用できる農薬が異なるので注意する。

3 なす、きゅうり、トマト等

- (1) 強風による損傷や倒伏を軽減するため、茎や枝を支柱やネット、誘引線によく固定しておく。

Ⅳ 果樹

1 共通

- (1) 収穫の適期を迎えている果実は、早急に収穫する。

2 なし・ぶどう等（棚仕立て果樹）

- (1) 強風による枝や果実の損傷を軽減するため、結果枝等を棚によく固定しておく。

3 りんご等（立木仕立て果樹）

- (1) 強風による枝や果実の損傷を軽減するため、側枝等太枝に支柱を設置したり、結果枝どうしを結束するなどして、固定しておく。

4 苗木

- (1) 強風による倒伏を軽減するため、支柱に固定しておく。特に、育苗中の「大苗」は倒伏しやすいので十分注意する。

Ⅴ 花き

1 りんどう

- (1) 収穫が終了したハウスは、ビニールをはずすなど、風を抜けやすくし、施設の損壊を防ぐ。
- (2) 新植ほ場では、マルチが風で飛ばされないように、しっかりマルチ止めなどで固定する。
- (3) ほ場が冠水しないように、事前に排水溝を設けるなど、対策を講じておく。特に、風雨により病気（葉枯病等）が発生しやすくなるので、発生が懸念されるほ場では防除を実施する。

Ⅵ 特用作物

1 こんにゃく

- (1) 大雨による冠水及び浸水等が心配されるので、排水溝等の点検をしておく。
- (2) 腐敗病等の予防のため、台風通過後に登録薬剤を散布する。

Ⅶ 畜産

1 畜舎

- (1) カーテン等の固定状況を点検し、補修、補強しておく。
- (2) 雨水の流入が心配される場合は、土のう等により対策を講じておく。
- (3) 車両や飼料、機器を水没しない場所へ移動しておく。
- (4) 風雨により浸水する可能性のある電気設備の防水対策を講じておく。

2 飼料用とうもろこし


- (1) 畑の排水路を確保する。
- (2) 収穫適期を確認し、早めに刈り取りを行う。
- (3) 収穫適期に被災した場合は、その後の気象情報に注意し、ほ場に機械が入れる状態になったら早めに収穫する。収穫時は土砂が混入しないように高刈りする。土砂の付着の著しいとうもろこしは、サイレージの品質劣化等の懸念があるので収穫しないようにする。倒伏、高水分、刈り遅れはサイレージの品質低下が避けられないので、調製時に添加剤を利用する。また、給与に際しては、必要に応じてかび毒や栄養成分分析を行うとともに、栄養価、嗜好性等にも配慮し、補助飼料やかび毒吸着剤を給与する等家畜の生産性が低下しないよう注意する。

3 停電による搾乳不能に備えて

- (1) 発電機の準備と燃料の確認を行っておく。
- (2) 停電時に搾乳する場合は高泌乳の牛から行う。また、濃厚飼料の給与は控える。

(注意)

※ 倒伏、冠水等により土壌等が付着すると、放射性物質に汚染されるおそれがあるので、収穫物に混入しないよう注意する。




農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！

身支度も
万全に！

- ① 農薬容器のラベルをよく読み正しく使う（※）
- ② 農薬の飛散防止を徹底する
- ③ 農薬の使用状況を正確に記帳する


※既に購入されている農薬について、ラベルどおり使用できない場合もありますので、メーカーのチラシや県のホームページ等、最新の情報をご確認ください。

栃木県農業環境指導センター




気象災害による農業被害を未然に防ぐため、
技術対策情報が 携帯電話等に直接メール配信される
「とちぎ農業防災メール」のご登録をお願いします！

併せて、気象警報・注意報等が直接メール配信される
「栃木県防災メール」のご登録をお願いします！



↑「とちぎ農業防災メール」
登録はコチラから



↑「栃木県防災メール」
仮登録はコチラから